



東京部会(第12回)

日時: 2008年5月8日(木)19:00-21:15

場所: 日本大学経済学部3号館(図書館)4階会議室

参加者: 加藤(日大)、中川(日大)、篠原(同志社大)、阿部(城西国際大)、新井(都立西高)、杉田(千葉西高)、三枝(目黒中央中)、中沖(清水書院)、鈴木(日本経済教育センター)、清水(カルチャー・プロ)、塩川(カルチャー・プロ)、宮尾(国際大) [順不同]

【内容要旨】

●最初に篠原先生より以下の報告があった。

1)経済教育ラウンドテーブル(シンポジウム)は、7月5日の午後、日大で開催。前半(13:30-15:40)は、篠原先生(開会挨拶も)が司会で、竹中氏(基調講演)、大竹先生と山岡先生による経済教育に関するパネル討論を、後半(15:45-17:10)は、猪瀬先生司会で、大杉先生(元文科省)、川瀬先生(北海道)にビジネス関係者他を加えて現場の教育に関するパネル討論予定。

2)研修の日程は、大阪8月4・5日、東京8月11・12日で、講師は、大竹(東京は地主)、西村(周)、篠原、中川の諸先生で、清水書院の教科書を配布。

3)年次大会は、9月6日に同志社大学で開催予定。

4)ワークショップは、八戸で6月28日に開催の方向で準備中(経済広報センターが見学希望)。また、梶ヶ谷先生が神奈川で開催に向けて準備中。

5)学生による経済社会問題への取り組みについてコンペをやらせて、マスコミで取り上げるなどのインセンティブをつけて全国的な運動にする提案について、アイデアあれば篠原先生まで。

6)「経済問題に関する見解比較」(以下参照)を日本向けに修正すべきなので、修正案があれば、宮尾まで:

http://www.econ-edu.net/blog/2008/04/report_6.html

●中川先生より、前回報告のあった大学生向けの入門講義の内容をより分かりやすくした案「学校の先生と相撲の力士、どこがおんなじ?」の解説があり、クルーグマンのいう4つの原理(希少性、機会費用、限界便益、インセンティブ)を学生が興味を持つ具体例などで説明。参加者からは、高校生に適用する場合に例が適切かどうか、また授業の成果をどう評価するか等の課題が提起された。

●宮尾より、試論「サブプライムローン問題とその影響:なぜ日本経済が打撃をうけるのか」の初稿と、それに対してすでに寄せられたコメントの紹介があり、さらに参加者からも以下の点が指摘された。(1)実体面と金融面と分けた点について、「実体面」という言葉を使わずに説明すべき、(2)その点に関して、図を使えば(証券化なども)より分かりやすくなる、(3)金融面については金融機関のバランスシートなどポイントを押さえれば、その他の部分は短く説明しても分かりやすくなる、(4)高校生には難しい用語の解説が必要。

●以上の点に関連して、カルチャー・プロ社の清水・塩川両氏より、「政治経済事典」の編纂について説明があり、特に経済用語に関する編集委員候補について相談があった。経済教育ネットワークの「時事問題の解説」とも関連するので、活発な議論やサジェスションがあり、今後は個々適宜アドバイスする方向。

(文責:宮尾)

次回開催予定: 6月19日(木)19:00-21:15、日大経済学部3号館(図書館)4階会議室
今回提起された問題を引き続き議論する。